

研究課題:

紙を媒体とした日本文化財の修復技術の研究

—伝統的な技術と材料を用いた日本文化財保存修復の試み

実践研究内容

研究の主な目的は、伝統的な修復技術、材料を用いて、東洋美術の保存修復が日本でどのように行われてきたのか理解度を深め、イギリスでの東洋美術、古文書を始め、コレクション全般の保存修復技術の向上に努めることでした。

約6ヶ月間の、絵画保存研究所での実際の活動では、浮世絵版画、近代日本画(軸装、額装)、現代日本版木の素材や技法についての知識を深めると共に、状態の調査報告、修復計画、実際の修復と保存を、修復家の指導のもと行いました。また、山領絵画修復工房、東京文化財研究所での短期のインターン活動、表具師や、アダチ版画研究所での浮世絵の摺師の実際の作業見学、国立国会図書館の資料保存課の見学などを通じて、紙や素材、技法に対する知識を深めました。

実践研究後の活動

2012年の6ヶ月間には、ケンブリッジ大学附属フィッツウィリアム博物館で、イギリスの修復家連盟 Icon のインターンとして、15-18世紀の古文書、貴重本の状態調査、修復作業を修復家の指導のもと行いました。平行して、オランダの16-17世紀の古文書の鉄インクによる被害による損傷の見られる貴重本の修復方法の研究や、中世の古文書に使用された顔料の科学的調査を、科学者とともに行いました。また、展示作業の補佐や、イスラムや西洋の製本のモデルも制作しました。

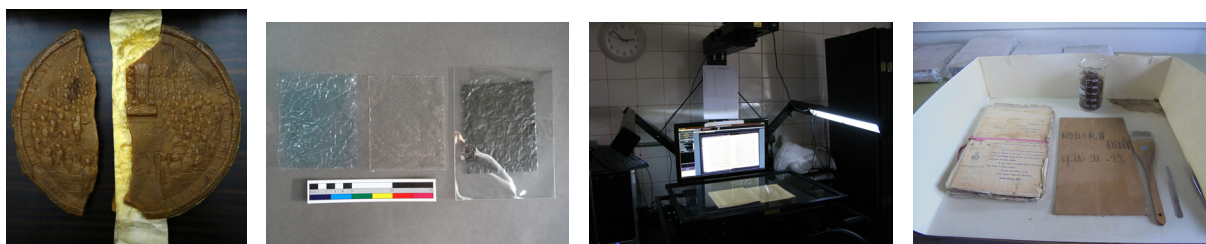
その後、2013-2014年にかけて、イギリスでフリーランスで活動し、他の修復家と共に、西洋の版画や水彩画、中国、インド、アフリカなどの素描画の修復活動を行いました。また、ナショナルコンサベーションサービスにおいては、カビ、虫害被害にあったアーカイブのクリーニング、インドの文書のデジタル化の作業、プラスチックネガフィルム、印章の修復作業などを行いました。リビングクラフツというクラフトフェアに参加する機会もあり、製本や修復の実技と説明、販売をしました。

現在は、2014年10月から、オックスフォードの製本所マルトビーズブックバインダーズにフルタイムで勤めています。論文、雑誌、貴重本などの製本作業から、貴重本の保存、修復活動も必要に応じて行っています。様々な用途の西洋の製本スタイルを、完成度を高く、効率的にこなしていく訓練になっています。さらに、製本家と修復家との間で使用する素材や技法が異なる点がある場合は、同僚と話し合い、美濃和紙や生麩糊を、一部の修復作業に使用するなどの試みを、徐々に始めています。

今年の4月にロンドンで開催される、Icon 主催の紙と本のグループの国際会議では、日本からの参加者のお手伝いを、通訳としてお手伝いさせていただく予定です。これからも、修復技術の継承や研究協力を通じて、イギリスと日本の国際交流の発展に微力ですがお役に立てればと願っています。



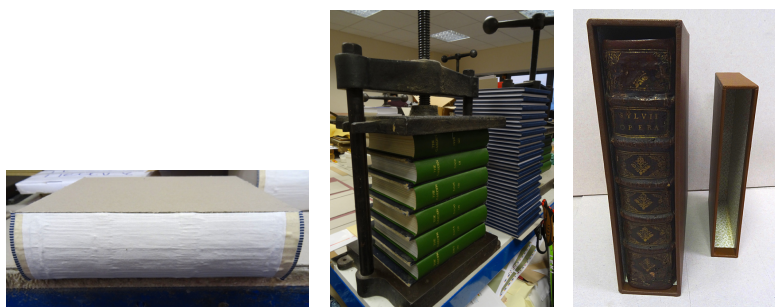
ケンブリッジ大学附属フィッツウィリアム博物館でのインターンシップより



ナショナルコンサベーションサービスでの修復活動より



フリーランスでの修復活動より



マルチピースブックバインダーズより